

令和2年度 中国高等学校バスケットボール新人大会

日時	2021年2月7日	15:00	女子	決勝
会場名	ジップアリーナ岡山			Mコート 第四試合
○ 倉敷翠松 74 $\left\{ \begin{array}{l} 19 - 21 \\ 22 - 18 \\ 14 - 16 \\ 19 - 16 \end{array} \right\}$ 71 鳥取城北 ●				

審判名	クルーチーフ	森原 隆					1stアンパイア	野口祥寛	2ndアンパイア		三島 彩		
選手名	背番号	得点	3ポイント	2ポイント	フリースロー	ファウル	選手名	背番号	得点	3ポイント	2ポイント	フリースロー	ファウル
吉田 亜子 (C) *	4	1			1	3	田川 想和 (C) *	4	10		4	2	3
菅野 亜梨珠 *	5	4		2		3	加河 真彩 *	5	6		3		3
上村 菜緒	6	0				3	永田 憂美 *	6	11		4	3	3
川上 ひかり	7	0					中村 舞星 *	7	20		8	4	2
倉田 美優	8	2		1			新島 怜侑	8	15	3	3		
土家 梨愛	9	-					古田 芽生	9	-				
瀬戸川 小春	10	-					徳山 琴子	10	-				
野瀬 紗奈 *	11	8		4		1	阪田 七海	11	-				
丸山 優香	13	-					小寺 千尋	12	-				
高見 遥伽	14	-					中野 乃愛	13	-				
アイビトウ グレイス*	15	51		21	9	4	古田 侑生	14	-				
守屋 琴羽	16	-					小椋 ゆきみ *	15	3		1	1	1
清水 咲菜	17	0				1	坂本 遥	16	-				
伏見 朋香 *	18	8		4		1	池澤 心優	17	-				
							日浦 陽和	18	6			6	
合計		74	0	32	10	16	合計		71	3	23	16	12

戦評

女子決勝は岡山県予選1位の倉敷翠松高校と鳥取県予選1位の鳥取城北高校の一戦となった。

1Q 立ち上がりは両校ともマンツーマンでスタート。序盤から翠松は⑮の高さを生かそうとドライブやハイポストからパスを供給し、⑮が得点を重ねていく。一方城北は切り替えが速く、相手のディフェンスピックよりも早い展開で⑤⑦のジャンプシュートなどで得点し、5分を過ぎ翠松10-10城北で両校譲らない。すると城北は⑮のインサイドを封じようとして3-2ゾーンに移行する。翠松はなかなかインサイドにボールを集めることができずシュートを決められない時間帯が続く。その隙を突いて城北④が速い展開からバスケットカウントなどで得点を伸ばしていく。翠松も⑩のリバウンドシュートやインサイドアウトから⑮が得点し応戦する。互いに拮抗した展開の1Qは翠松19-21城北で終了した。

2Q 城北はゾーンを継続するが、翠松⑥がハイローの合わせで得点する。城北は機動力を生かし⑮のドライブで攻め返すと、⑧がバックドアと3Pで連続得点し、翠松21-28城北と引き離しにかかる。翠松はハイポストを起点に攻撃するが中を徹底的に固める守りを攻めきれず、7点差がなかなか縮まらない。しかし残り6分、翠松⑪から⑮のハイロープレーをきっかけに⑮が連続得点。城北はドライブや速攻でシュートまでは持ち込むがディフェンスに阻まれ、翠松33-32城北と逆転を許す。残り4分、城北がタイムアウト後に④の速攻を⑦の合わせに繋げると、⑥もドライブで果敢に攻め翠松35-36城北と得意なスタイルで再逆転する。その後は両者得点し同点となるが、城北のゾーンが収縮した隙に翠松⑩がミドルシュートを決め、翠松41-39城北と翠松が2点のリードで前半を終えた。

3Q 翠松マンツーマン、城北3-2ゾーンからスタート。前半に続き翠松は⑮にボールを集め、インサイドで得点を重ねていく。城北も果敢にインサイドを攻め、相手のファウルを引き出し、フリースローなどで食らいついていき、残り6分で翠松53-46城北となる。約4分間得点が止まっていた城北だったが、残り2分、城北⑩が体を張ってリバウンドをもぎ取り城北⑧の3Pにつなげ、城北⑮のドライブから④がフリースローを獲得するなど、城北⑮の頑張りもきっかけに追い上げを見せる。終盤城北が追いつくことに成功し、翠松55-55城北の同点で4Qに突入する。

4Q 城北はディフェンスをマンツーマン、オールコートに変えてゲームを奪いにかかる。しかし翠松は相手の裏をつき⑮の連続得点に繋げ、開始2分で翠松63-55城北と突き放す。城北はタイムアウト後もオールコートを継続し、得意の速い展開に持ち込む。リードを広げたい翠松だが、相手のペースに乗る形になり点差は広がらない。残り4分、城北⑦がパスカットからレイアップに持ち込み翠松68-61城北とすると、たまたま翠松のタイムアウト。その後、翠松は⑩がドライブから⑪の合わせに繋げるが、以降は得点が止まる。城北は⑦のドライブを起点に得点を積み上げ、残り2分には翠松70-67城北と3点差に詰め寄る。翠松のタイムアウト明けも城北⑦のドライブを⑥が得点し点差は1点に。どちらに転ぶかわからない展開の中、残り1分を切ったところで翠松⑩がドライブから⑪の合わせにつなげる。しかし城北⑥もドライブを決め譲らない。残り13秒、翠松が⑮の得点で翠松74-71城北となる。タイムアウトを取り3点を狙いにかかる城北だが、翠松がそれを許さず、僅差のゲームを翠松が制し、6年ぶり4回目の優勝を果たした。

